

# 「みち」

平成28年1月15日発行

## 長沼地区小中一貫「つなぐ教育」から学ぶ

長沼地域は、今年度、県の「つなぐ教育」推進校の指定を受け、「確かな学力の向上」を目指して、地域ぐるみでいろいろな取組が行われています。その推進事業の一環として、平成27年11月26日(木)「長沼地域公開授業研究会・教育講演会」が長沼中学校で行われました。

ここでは、公開授業（長沼小学校6年生の算数と長沼中学校1年生の数学）、講演会から学んだことをお伝えします。

### ①「考えを引き出す」基本は「解決の見通しが持てる」こと



課題を解決するためには、既習事項の想起がポイントの一つです。合同な図形のかき方や線対称な図形の特徴など、前時までに学習したことを想起させる工夫がどちらの授業にもありました。9

年間を見通した教科の系統性を小中学校で意識した取組の成果が表れた授業になっていました。

### ②「伝え合える」の基本は「聞き合える」こと

どちらの授業も「伝え合う」をキーワードにした授業で、課題に対して自分なりの解決方法を持ち、ペアで、グループで互いの考えを伝え合い、多様な考えを出し合いながら解決に向かう授業でした。そこには、友だちの説明や困り感を真剣に聞く子どもたちの姿があり、自分の解決方法を友達に説明したり、「わからないなあ、どうしてこうなるの」と聞いたりしながら粘り強く解決に向かう子どもたちの姿がありました。9年間を見通した子ども像を明らかにし、学習のスタイルや学習のルールなどを発達段階に応じて継続的に指導している成果が表れていました。

公開授業後は、講師に高橋興先生（青森中央学院大学教授）を迎え、「小中一貫教育を推進するポイントと課題」と題して、教育講演会が行われました。具体的に推進するポイントを示唆していただくとともに須賀川市の小中一貫教育の取組について、次のようなエール（助言）をいただきました。

- 1 「文句なくうまくいっており、大きな成果があった」などと評価されている例は皆無である。
- 2 そんなに簡単に成果が上がる取組ではなく、10年ほどの取組の蓄積でようやく形が整う。
- 3 須賀川は、着実に確かなステップを踏んでいる。ぶれることなく取組を継続することで、大きな成果が期待できる。

須賀川市では「児童生徒の自尊意識を高め」、「児童生徒一人ひとりの個性を輝かせ、自ら考え、判断し、表現・行動する、いわゆる“生きぬく力”を育む」ために小中一貫教育を行っています。

本年も子どもの成長を大人たちで支え、見守り、励ましながら、幼稚園と小学校と中学校を、学校と家庭・地域とをつなぐ「小中一貫教育」須賀川モデルを推進していきましょう。

## 授業中できるだけ増やしたい 教師の言葉

- 「困っていることはない？」  
「まだ書き終わってない人、手をあげて教えてね」  
「先生にも聴かせてほしいな」  
「先生も聴きたいなあ」  
「クラスみんなに聴いてほしいこと、ないかあ？」  
「グループで話し合って、気づいたこと、聴かせて」  
「わからない所は、隣の人、前後の人に聞いてごらん」  
「わかりにくかったら、周りの人と相談してね」  
「A君の意見は、みんなが考えつかなかったものだね」  
「Bさんの言いたいのは、たぶんこうだと言える人、いるかな？」  
「C君の言いたいことの続きがうかんだ人、いるかな？」



## 中学校生活に不安や心配は…

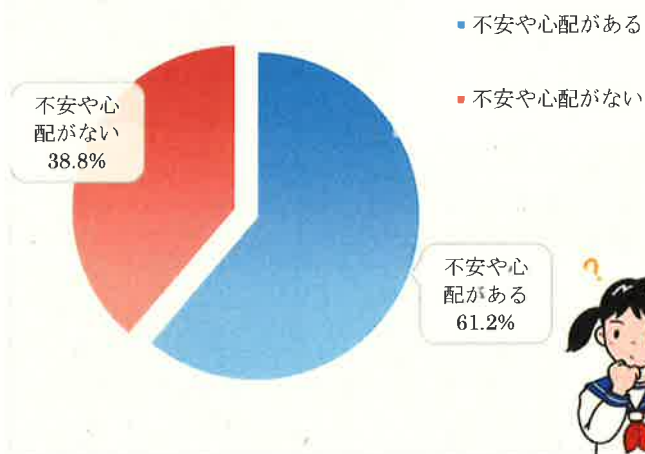
(中学校生活に関するアンケートの結果より)

須賀川市は、昨年度から「小中一貫教育」須賀川モデルを推進しています。小中一貫教育を踏まえた教育課程編成や今後の小中一貫教育の取組の参考資料とするために、昨年10月、6年生児童を対象に中学校生活に関するアンケート調査を実施しました。集計結果は次の通りです。

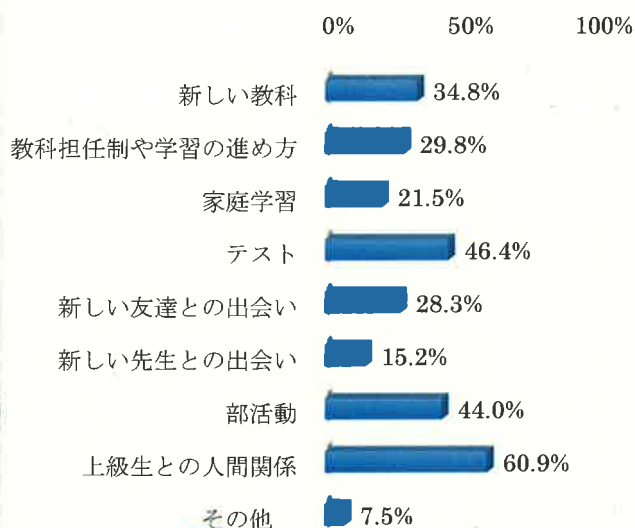


### 須賀川市全体の結果

#### 中学校生活に不安や心配は



#### 不安なことや心配なこと



#### その他の記載内容

- 人間・友だち関係についての不安・・・8件（仲良くできるか、友達ができるか）
- いじめについての不安・・・7件（いじめられる不安）
- 学習についての不安・・・6件（数学、英語、水泳学習について、宿題の量、部活と勉強の両立）
- 生活についての不安・・・6件（生活時間、登校時間、登下校の道のり・安全、ルール）
- 給食についての不安・・・3件（残したら・・・、ルール）
- 身体的なこと・・・1件（身長のこと）



#### アンケートの結果から見てきたことは、

- 市全体を見ると約6割の子どもたちが、中学校生活に不安や心配を抱えています。中学校区別に見ると、6割の子どもたちが、不安や心配がないと答えている中学校区がある反面、8割に近い子どもたちが、不安や心配を抱えている中学校区もあります。複数の小学校の子どもたちが入学する中学校区の不安や心配を抱えている子どもの割合が高い傾向にあります。
- 実際の不安や心配な内容については、上級生との関係が一番多く、次いでテストや部活動の順になっています。これは、各学校で順位は異なり、1小学校1中学区の方が、テストや部活動に関する不安が多く、複数小学校1中学校区になると上級生との関係に不安を抱いている子どもが多くなっています。

結果を見ると、部活動での先輩後輩という新しい人間関係をつくる不安、異なる小学校出身者同士の間関係の構築に対しての不安、学習面では科目数が増え、中間・期末考査が導入され、別々の教員から授業を受けることなどへの不安が見えてきます。しかし、半数以上の子どもたちが、中学校生活への不安や心配を抱いていない中学校区もあり、今までの小中一貫教育の取組が一定の成果を収めていることも確かです。

地域の実態や学校規模などの違いにより、小学校ごとに特色が出ています。

**自校のアンケート結果から、自校の子どもが不安に思っていることを、中1ギャップを引き起こす原因の1つとして受け止め、どう不安を取り除くか、今できることは何かを中学校区ごとに話し合い、具体的な実践事項を教育課程に位置づけていくことが大切であると思います。**